

しょうわ つうしん

Show-a 通信

2020.8
第28号

北海道消化器科病院は消化器病分野の最先端治療で地域医療に貢献しています。

医療法人彰和会の「彰和 (Showa)」と明らかにするという意味の「Show」を合わせて、「Show-a通信」としました。
私たちの仕事をお知らせすることで、消化器科領域の最新医療をお伝えします。

高感度・高分解能PETと最先端CTが融合 最新型PET-CT装置を導入

さらに進んだ画像診断技術で検査時間が半分に



高感度・高分解能PET と
最先端CT が融合

消化器
Frontier

最新型 PET-CT装置を導入

さらに進んだ画像診断技術で検査時間が半分に

PET-CT装置はPETとCTが一体型となった画像診断装置で、一度の撮影でPETとCTの両方の画像を同時に得ることができます。当院では2020年5月にPET単独装置を最新型のPET-CT装置に更新しました。がんの早期発見や病巣の広がり診断、治療後の経過観察に威力を発揮しています。

わずか20分の検査で
微細ながんを検出

当院が5月に導入した最新型のPET-CT装置は、従来品よりも高感度な画質が得られるだけでなく、検査時間も半分以下の15〜20分ほどに短くなりました。検出器を2分割して配置しているため、検査中の視界範囲が拡大され、患者さんが検査中に感じていた閉塞感や不安感などのストレスも大きく軽減されています。

PET画像で得られる「がん細胞の活動」とCT画像で得られる「臓器の形状」を重ね合わせる最新技術によって、より明確に病変部位や範囲が診断できます。

「さらに進んだ技術によって、患者さんの体格による画質差が少なくなり、5mm程度の小さながんの検出も可能になりました。病変のさらなる早期発見、転移の把握、治療後の経過観察など、一人一人に合った治療方針や治療戦略を定めることができます」と放射線科の安達政一医師は話します。



PHILIPS Time-of-Flight方式搭載 PET-CT (64スライス) 装置

短時間、低投与量、高感度な画質で微細病変を検出

【最新型PET-CT装置のメリット】

- 開放空間のある検出器が検査中の閉塞感を軽減
- 40分ほどかかっていた検査時間が15〜20分に短縮
- 体格による画質差が少なく安定した画像を獲得
- ノイズに埋もれがちな5mmの小さながんも検出

PET 検査

がん細胞の活動を画像化します

がん細胞は正常細胞の何倍ものブドウ糖を取り込みます。ブドウ糖と類似する18F-FDGを注射するとがん細胞に取り込まれるため、それを捉えて画像化します。

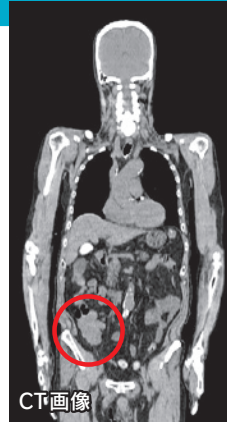


PET 画像

CT 検査

臓器の形状を画像化します

X線を被写体の周囲から当て、得られた情報をコンピュータ処理することにより、体の組織や臓器を輪切りにした断面画像を作ることができます。

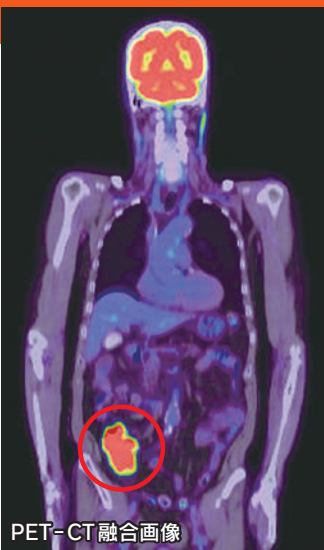


CT 画像



PET-CT 検査

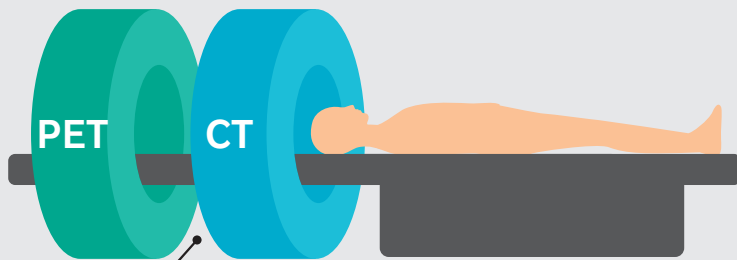
高感度な2つの画像を重ね合わせる最新技術でより精度の高い診断ができます



PET-CT 融合画像

対象疾患

悪性リンパ腫、食道がん、胃がん（早期胃がんを除く）、膵がん、胆のう・胆管がん、肝細胞がん、小腸腫瘍、大腸がん、原発不明がん、など



PET-CT 検査の基本的な流れ

絶食



検査の5、6時間前から絶食します。水や緑茶は摂取可能（糖分を含むものは不可）。

注射



検査のための薬（18F-FDG）を静脈注射します。

安静



全身に薬が行き渡るまで約1時間、待機室で安静に過ごします。

撮影



検査装置に仰向けになり、15～20分過ごします。



PET-CT 検査は放射線技師が担当します

※前日の運動は控えてください

※検査はごく少量の放射性医薬品を体内に投与するため、わずかに被ばくします。当院のPET-CT装置は通常投与量の半分ほどで計測が可能のため、従来の装置より体への影響が少なく済みます。薬剤は尿と一緒に排泄されます。



医療連携相談室の新体制

- 室長（看護師） ● 主任（看護師）
- 入退院支援部門専従看護師
- 入退院支援部門専任医療ソーシャルワーカー
- がん相談専任・緩和ケア担当医療ソーシャルワーカー
- 緩和ケア鍼灸師



「医療連携相談室」

6月から7人体制で
「入院前も退院後も」
患者さんをサポート！



院内連携を促進する新体制

医療連携相談室は「入退院支援」を強化するために、2020年6月から新体制となりました。これまで看護師1人と医療ソーシャルワーカー3人、緩和ケア鍼灸師1人による5人体制でしたが、病棟経験が豊富な看護師2人が新たに加わりました。

医療相談室室長と病棟棟長を兼任する大澤かほる看護師は、「予約入院が決まった患者さんへ入院前面談を行い、入院前から支援を始めています。入院中のケアから退院後の生活へと切

れ目のない支援を目指せるよう、院内連携の強化に努めています」と話します。

入院前に治療経過と退院後の予測を説明

入院前面談の具体的な業務は、入院が決まった患者さんやご家族に、医療連携相談室のメンバーが外来で面談を行い、患者さんの身体的・社会的・精神的背景を伺うところから始まりま

す。患者さんが納得して治療を受けられるよう、入院中の検査や治療について説明し、不安や心配事があれば解決を支援します。また、安心して退院できるように、退院後の予測についても伝えます。介護サービスや福祉サービスへの移行や継続をスムーズにするため、地域の関係機関と早い段階から連絡を取り、退院後の準備を進めます。

地域連携・入退院支援・相談支援を一元化し有効な支援をスムーズに

地域連携部門

- 地域医療機関との連絡調整
- 病病・病診連携に関する連絡・手続き
- 紹介患者の診察・検査の予約や管理
- 転院、施設入所、退院などの支援

入退院支援部門

- 予定入院患者の身体的・社会的・精神的背景を含めた患者情報の把握
- 入院中に行われる検査や治療、入院生活などの説明
- 患者情報を病棟や地域の医療・介護・福祉機関と共有するなどの支援

相談支援部門

- 医療費、生活費などの経済的問題への対応
- 医療、介護など各種制度の案内
- 退院後の療養、介護について支援

患者さん・ご家族からの相談

1階カウンターに直接お越しいただくか、医師・看護師にお申し出ください

相談時間 月～金 8:45～17:00
土 8:45～12:00

退院後 ← 入院中 ← 入院決定

医療連携相談室で患者さん・ご家族と面談し、手術後や退院後を予測

- 病棟でのケアや退院後の見通しに生かす
- 必要に応じて、地域の医療・介護・福祉機関に連絡

患者さんやご家族が希望する生活へのスムーズな移行

入退院支援業務の流れ

地域の医療・介護・福祉と早めにつながり患者さんを支援



医療法人 彰和会
HGH 北海道消化器科病院

消化器内科、腫瘍内科、内科、消化器外科、外科、肛門外科、緩和ケア内科、放射線科、麻酔科、病理診断科

- 設立：1988年2月20日
- 住所：札幌市東区本町1条1丁目2番10号
- 電話：011-784-1811 □ FAX：011-784-1838
- ホームページ：http://www.hgh.or.jp/
- 病床数：199床